

■ 目次

応急手当の重要性	……2	鼻出血・けいれん	……15
救命処置の流れ (心肺蘇生とAEDの使用)	……3	熱中症	……16
安全の確認・反応(意識)の確認	……5	骨折(疑い含む)の固定法	……17
119番通報と協力者への依頼・呼吸の確認	6	三角巾固定法	……18
胸骨圧迫	……7	やけど	……19
胸骨圧迫と人工呼吸	……8	溺水	……20
AEDの使用手順	……9	こんなとき救急車(大人)	……21
気道異物の除去	……11	こんなとき救急車(小児)	……22
傷病者の管理法	……12	家の中には危険がいっぱい	…23
搬送法	……13	正しい救急車の利用法	…24
止血方法(直接圧迫止血法)	……14	救急車が到着するまでに	……25
		消防隊による救急活動	……26
		おたすけAED事業	

■ 救命の連鎖



『救急蘇生法の指針 2015(市民用)』に基づき作成

● 応急手当の重要性

私たちは、いつ、どこで、突然のけがや病気におそわれるかわかりません。そんなときに、家庭や職場でできる手当のことを応急手当といいます。

けがや病気の中でも最も重篤で緊急を要するものは、心臓や呼吸が止まってしまった場合です。心臓や呼吸が止まった場合、命が助かる可能性は時間とともに減っていきませんが、そばに居合わせた人が心肺蘇生を行った場合には、その減り方がずいぶんゆっくりになります(下図)。このことからわかるように、傷病者の命を救うためには、その場に居合わせた「あなた」が心肺蘇生を行うことが最も大切なのです。

■ 応急手当と救命曲線

